

## 産科部門の課題；他医療圏との連携

1. 母体合併症・妊娠合併症や社会的経済的問題を有するハイリスク妊産婦が多い
2. 婦人科患者も増加し、手術件数が増加
3. 新棟オープンにより外来ブースは増加したが、看護師の配置が追いついていない
4. 出生前診断症例の増加とその対策を構築する必要がある
5. 看護学生、助産学生の教育の負担がある

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター産科部門)

## 新生児部門の課題；システム

1. 定数 (30床) 以上の患者を受け入れることもある
2. 特にNICUは、常に満床状態で、新規の患者の受け入れが困難になることが多い
3. 病棟の構造上、ベッド間のスペースが狭く、院内感染のリスクが高い。プライバシーの確保も難しい。

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児部門)

## 新生児部門の課題；人材・フォローアップ体制

- A. 当直体制の維持のため7名の専属医師が必要
- B. ワークライフバランスを考慮した勤務体制の構築
- C. 短期予後は改善したものの、長期のフォローアップ体制が未整備
- D. 社会・経済的ハンディの大きい家庭が多いため、早産児だけでなく、成熟児に対しても育児支援を充実させる必要あり
- E. 出生前診断、先天奇形の児に対するカウンセリングなども充実させる必要あり

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児部門)

## 北部から搬送された母児の問題

1. 母親の退院後の通院が困難（特に名護以北）
  - A. 母子関係の構築に支障が出る可能性
2. 早産児の発育発達のフォローアップが課題
3. 母乳の搬送が困難で母乳栄養が円滑に行えない
  - B. 逆搬送も往復2時間かかる
  - C. できるだけ早めの北部病院転院を考慮
4. 地域連携が必要な症例が多い
  - D. 若年出産、未受診妊婦、虐待ハイリスクの家族
5. 長期の発達評価が必要な症例でも、通院が困難

（沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児部門）

## 南部医療圏への母児搬送

1. 南部医療圏への母児搬送（当院で受け入れ困難）例
  - A. 2014年 67件, 2015年 43件（9月25日現在）
  - B. 概算で年間 58.6人の搬送
  - C. 9月9日に最大11床不足
2. 中部病院の病床不足数
  - A. 新生児 -42 （内訳：NICU -10, GCU -24）
  - B. MFICU -10
3. 中部医療圏の周産期病床は、52床＋8床（MFICUのバック病床としての一般病床）不足

## 中部圏域の4疾病医療と機能病床

1. 脳卒中
  - A. 急性期→救急医療、高度医療
  - B. 回復期→リハビリ、在宅医療
2. 心筋梗塞
  - A. 急性期→救急医療、高度医療
3. がん；一般医療～高度医療、在宅医療
4. 糖尿病；外来中心
5. 病床そのものが足りない



